

令和4年  
(2022年)  
11月

# ゆりー



米原区の人口及び世帯数

令和4年10月末現在  
戸数 1,110 世帯  
人口 2,687 人  
男 1,327 人 女 1,360 人

### ・区の行事予定・

#### 11月

- 1日(火) ミニ・デイサービス
- 10日(木) 千尋会グラウンドゴルフ大会
- 11日(金) 審議委員会
- 20日(日) 米原区クリーン作業  
\*コロナの状況を見て判断
- 27日(日) グラウンドゴルフ大会  
\*コロナの状況を見て判断

#### 12月

- 6日(火) ミニ・デイサービス
- 9日(金) 審議委員会
- 12日(月) 千尋会定例会  
\*コロナの状況を見て判断

### 米原区クリーン作業 11月20日(日)午前9時～



酷暑も過ぎ去り、短い秋が米原を訪問中。そんな中、すがすがしい気持ちで年末・年始を迎えられるよう、恒例のクリーン作業を実施したいと思います。

※重要：『燃やせるゴミ(草木、紙類、ペットボトルなど)』『燃やせないゴミ(あき缶、ビン類、鉄など)』に分別し、ボランティア袋に入れ、口は縛って出して下さい。分別されていない袋は、役所による回収が不可となりますので、しっかりと分別しましょう。ガソリンや混合燃料は現場へ届けます。

※ボランティア袋は当日回収しますので、目に付きやすい場所に置いて下さい。重さは、一袋10kg以内でお願いします。

\*コロナ感染防止のため、巡回するスタッフがペットボトルの水を配布します。ハンバーガーについては、三密を避けるためお持ち帰りをお願いします。体調には十分気を付け、2時間程度の作業でお願いします。

※コロナ感染の状況によっては、中止となる場合もあります。また、雨天の場合は中止とします。

### 3年ぶりの

### 米原区グラウンドゴルフ大会

日時：11月27日(日)9時集合(9:30~12:00)  
場所：どんぐりフレンドパーク



- \*景品も準備していますので、どしどし参加して下さい!
- \*コロナウイルスの感染状況により中止になる場合がございます。その際は放送でお知らせいたします。ご了承下さい。



### 今月の徴収金

区費	1,000
防犯灯負担金	150
赤い羽根募金	500
合計	1,650円

### ありがとうございます

- ・3班の福地心一様(浄福寺)より、飲み物の寄贈がございました。
- ・7班の銘苅格様より、生年祝いへのご芳志がございました。



### オレンジカフェ・ひまわりって?...

うるま市地域包括支援センター具志川にしが開催している喫茶店みたいなものです。公民館が場所を提供し、65歳以上で認知症について相談したい方、そのご家族、地域住民が集い、気兼ねなく相談・情報を交換する場所です。お気軽にお問い合わせ下さい!

詳しくは添付されているチラシをご覧ください。

\*対象区域ならどの公民館に参加してもオッケーです。



十月の審議委員会の審議事項(十月十四日(金)開催)

- 一、敬老会に代わるイベントの実施可否について
  - ・八月の審議委員会で今年度の敬老会は中止と決めしたが、昨今のコロナ感染者の減少傾向や、他の自治会では時期をずらして他のイベントと抱き合わせて敬老会の開催を予定していることなどから、米原区でも再度検討した方がいいと考えている。
  - ・しかし、従来通りの開催は厳しいので、対象者(八十歳以上)のみの招待で、会食はなし、余興の出し物も限定し、開催時間は一時間から一時間半程度とし、弁当と飲み物は持ち帰りとする。
  - ・中止と判断した八月は、感染者が三千人〜四千人と多かった。その後、減少に転じていることから、区民のために何か出来ないものかと思う気持ちは分かるが、今後インフルエンザの流行が予想されることもあり、現段階(十月十四日)での判断は難しい。十一月の審議委員会で最終決定する。
- 二、クリーン作業について
  - ・例年通りのやり方で班ごとに作業し、ハンバーガーと飲み物を配る予定である。
- 三、グラウンドゴルフ大会について
  - ・区の年間行事では十一月十三日を計画していたが、市主催の防災士の講習日と重なったため、グラウンドゴルフ大会を十一月二十七日に変更する。

～へー、そうだったのか！(パート53)～ 一ゆり一の長寿にあやかろー！

人生 50～60 年と云われた時代は、はるか彼方に押しやられ、今や百歳の長寿を謳歌する時代がやってきた。

我が米原にも、そのフレーズにピッタリの大先輩方がおられる。先月号では、トーカチを祝った7名を紹介したが、今回はカジマヤーお三方、新百歳お二方を紹介したい。

まず、カジマヤーで先鋒を務めるのは、4 班の小谷マサ子さん。大正 15 年 10 月生まれのマサ子さんは、男女 3 人ずつの子を筆頭に孫 18 人程、そして多くのひ孫に恵まれているという。



具体的な数字を聞いたが、「数えたことがないから分からない」との返事。小さいことにはこだわらないのであろう。

めん類が好きで😊顔が可愛いおばあちゃんは、子、孫、ひ孫から「オーバー、オーバー」と呼び慕われているアイドルなのだ。10 年ほど前に白内障の手術を受け、視力が回復したマサ子おばあちゃんは、週に数回、次男良幸と三男良隆が持ってくる新聞を読むのが趣味と云い、たまたま手にしていた記事の難しい漢字も、難なく読みこなして見せてくれた。インテリアの仕事についている人の母親は、インテリだという事が証明された。

デイケアや高齢者の施設にはお世話にならず、もっぱら家で過ごしているマサ子さんは、テレビ鑑賞も好きで、ウチナー芝居では、カミオーキの長男と懇意の仲だった大宜味小太郎が好きだ。また、区内の家々の屋号にも明るく、昔話もよく覚えていると云う。よく食べよく眠るのが健康維持の秘訣だとし、また、感謝の言葉「ありがとう」や、「いりきさんやー」をよく口にすると三男の良隆さん。孫たちの成長が楽しみで、カジマヤーのうゆえーの時は、家族数名で区内外の7つの橋を渡ってきたと嬉しそうに話してくれた。

次鋒で登場願うのは、2 班の和宇慶マツ子さん。一人っ子の勝則さんを筆頭に、孫 4 名、ひ孫 7 名を率いている。肉類や寿司が大好きと云う



マツ子おばあちゃんは、プチプチ(梱包用気泡緩衝材)を押しつぶすのが趣味という。体の「大きい」人が、「プチ」とは、これいかに、と思うのだが、好対照で愛おしくもある。

デイサービスでの体操で体を動かすことが得意で、孫たちと色々接することでパワーを分けてもらっていると云うマツ子さん、元気であり続けられる源はそこにあるようだ。若い頃は、

スポーツは何でもござれのスポーツウーマンで、変わった所では、鞍なしの裸馬に飛び乗るのが得意だったようだ。じゃじゃ馬にまたがられた裸馬はさぞ驚いたに違いない。

県内でも有名な三人の相撲取りを孫に持つマツ子さんは、孫たちの応援で県内外の各地を訪れたり、仲のいい友達と国内はもとより、外国旅行に行けたのがいい思い出と云う。

性格は「がーじゅー(強情)」だと家族が認定するマツ子さんは、特に相撲取りの孫たちに対し「頑張れよ」と云うのが口ぐせだ。何事もまずは、土俵に上がって、ピンチの時でも、徳俵を利用して頑張れと言っているのかもしれない。家族との食事を楽しみにしていると云うマツ子おばあちゃん、カジマヤーを迎えられたことに感謝している、と締めてくれた。

3 番目の中堅には、和宇慶成子

(しげこ)さんにご登場願おう。昭和 2 年生まれの成子さんは、教員だった父親の転勤の都合で、名護や南風原など各地を転々とする「とぅんじゃーとぅんじゃー」の青春時代だったと回想する。



教員になり55歳で勸奨退職するまでの30 数年間、音楽に専心し、赴任した各学校では生徒たちへの合唱の指導をしたり草笛を導入したりしたと云う。運動会ではピッコロを使った行進曲を演出したり、「南洋浜千鳥」の振り付けも手掛けたことがある、と懐かしそうに語った。

若い頃はトーフ作りも経験してきたと云う成子さんは、結婚後、区内や兼箇段で、祝い事がある家に自家製のトーフと具のない天ぷらを揚げて持って行き、大いに喜ばれたりしたという。(昔は、食材が乏しく、具なし天ぷらでも大歓迎されたようだ。)

戦前、役所が奨励する「食糧増産」の一環で米を作っていた頃、手伝いに来た旦那さんの生徒たちが、シマグミメーを喜んで口にしていた事を思い出したと云う。健康の秘訣を問うと、「若い頃の活力が残っているから」と笑いながら語ってくれた。

最後に、将来を担う若者へのアドバイスを伺うと、「自分の好きなことを伸ばしなさい」と返ってきた。

4 番目は新百歳、副将で登場の5 班の和宇慶サダさん。施設(カシタ)での食事は、全部ご馳走で満足していると云うサダさんは、肉や魚はもちろん、果物も大好き。読書を趣味とし、特に聖書は随分と読み込

んできたようだ。コロナ禍で思うようには面会できない子や孫たちの健康を願うことで、自分自身が元気になること。若い頃は手芸や裁縫が得意だったサダさんは、いつも歌を口ずさみながら、天から見守ってくれている神様に感謝し、毎朝、日の出に向かって感謝の祈りを捧げると云う。



もの静かだが、孫のちょっとしたしぐさにも大笑いするというサダさん。「いったーみんなのおかげさー。ありがたいさー」と言いながら、「神様は見ているから、いつも天に感謝」「天から喜びが湧いてくる」と考えていると云う。人間は天から「愛情や心の感動」という素晴らしい能力を与えられているから、それに気づいて生きて行って欲しい、と云っているようだ。

「これからは若い人たちの時代さー、がんばってねー」「(やるべきことをやってあげば)なんくるないさー」とエールをいただいた。

最後に大将で控えしは、これまた新百歳の5 班の和宇慶朝計さん。(百歳に新も旧もないと思うのだが、何故かそう呼ばれている。)

トーフ、ソバ、ていびちが好きと云う朝計おじい。散歩やドライブが好きで、ストレスをつくらぬよう努め、早寝早起きが健康の秘訣であると云う。洗濯物を干したり畳んだりすることが得意だという朝計おじい。若い頃は仕事に必要な自転車にまたがり、数十年間、中部圏内の道路メンテナンスの為にペダルをこぎ続けた。「十番口説」が好きで、「光陰矢の如し」も人生の綾として捉えているという朝計おじいの人生観には、生きざまの濃淡がにじみ出ている。



1 世紀の人生で最も思い出として残っているのは、40 代に3 千坪の土地を購入したことだという朝計翁は、アルコールが注入されると好々爺に変身していたのは過去の話。今では、しらふでも好々爺、と家族は言う。今後の楽しみは、旨いものを口にしながら、孫やひ孫と出かけた、はなしーぐわーせーすることだと云い、上杉鷹山の「為せば成る、為さねばならぬ何事も」を若者に伝えたい、と締めくくった。

人生の達人に乾杯!

～へー、そうだったんだ!～

